

事業効果・検証①

圏央道（神崎～大栄）のストック効果について

国土交通省 関東地方整備局
常総国道事務所
計画課長 佐藤 潤

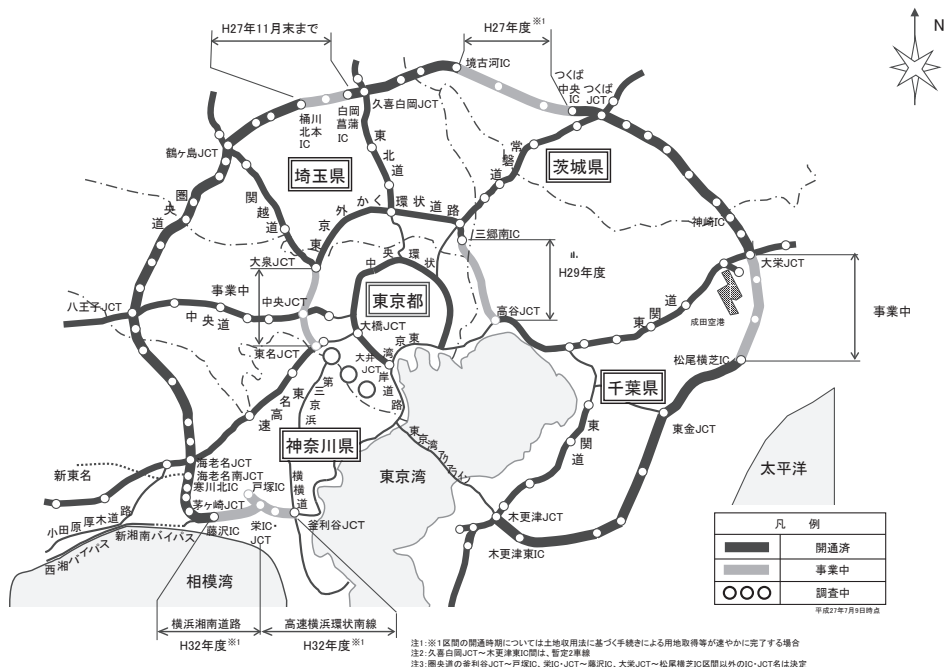
1. はじめに

圏央道（首都圏中央連絡自動車道）は、都心から半径およそ40km～60kmの位置に計画された、延長約300kmの高規格幹線道路で、横浜、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市を連絡し、東京湾アクアライン、東京外かく環状道路などと一体となって、首都圏の広域的な幹線道路網を形成する首都圏3環状道路（内側から首都高速道路中央環状線、東京外かく環状道路、圏央道の3つの環状道路の総称）の、一番外側に位置する環状道路である。

この圏央道は、首都圏の道路交通の円滑化、環境改善、沿線都市間の連絡強化、地

域づくり支援、災害時の代替路としての機能など多くの役割を担っており、これまでに延長約230kmが開通しており、放射状に伸びた東名高速、中央道、関越道、東北道、常磐道、東関東道などが圏央道により結ばれ、早期に開通した区間では、ストック効果（整備された社会資本が機能する事によって、継続的に中長期的に得られる効果）が発現している。

本稿では、平成27年6月7日に開通した神崎IC（千葉県香取郡神崎町）～大栄JCT間（千葉県成田市）の延長約10kmが開通したことによるストック効果について説明する。



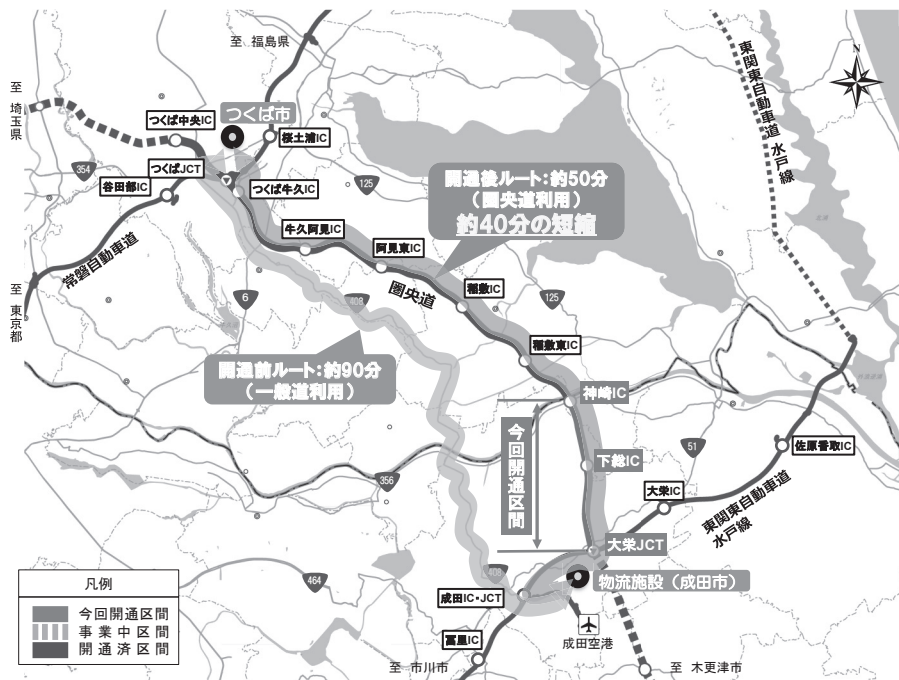
首都圏環状道路の整備見通し

3. 国際競争力と成長 ～民需の拡大～

圏央道周辺には、開通を見込んで工業団地への新たな企業立地や拡張などが進んでいる。

今回開通区間周辺に新たな物流施設を建設した企業では、開通前までは、一般道を利用し精密機械をつくば市内から成田市内

の物流施設まで運搬していたが、開通後、圏央道を利用することにより、移動時間が約40分短縮、一般道に比べて振動・揺れの少ない高速道路を長く走行できるため、スムーズに安心して運べるなど、利便性の向上を実感して頂いている。



4. 地域経済の好循環 ～広域交流の実現～

神崎ICの直近にある道の駅「発酵の里こうざき」は、国土交通省から今年1月30日に重点道の駅に認定され、開通前の4月29日にオープンしていたが、開通前後の来場者数を比較すると2割ほど増えて、売り上げも上昇。圏央道開通後は、観光バス、物流車両の立ち寄りが増えていると実感しており、今後、圏央道により広域的な観光交流が見込めるため、内外からの集客に取り組みたいと道の駅関係者は語っている。

また、圏央道を利用している一般利用者からは、土浦市内から会社のある成田市内までの通勤で利用しているが、一般道では60～90分位かかっていたが、開通後は、

40～45分位で行けるようになり、時間短縮でき、到着時間もよみやすくなったとの声や圏央道周辺のゴルフ場に行くのに初めて圏央道を利用したが、15分ほど早く行けて移動が便利になったとの声があった。



道の駅「発酵の里こうざき」

5. 地域経済の好循環 ～新たな広域ネットワークの形成～

次々とつながる圏央道により、日本の玄関口である成田国際空港と北関東方面を結ぶ新たな広域ルートが形成され、成田国際空港から主要な観光地への移動ルートの選択性が広がり、地域間移動の時間短縮が期待される。

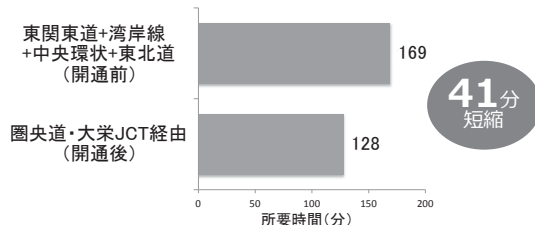
例えば、成田国際空港から平成27年度「日本遺産」に認定された栃木県足利市にある足利学校跡へは41分短縮、同じく「日本遺産」に認定された茨城県水戸市にある旧弘道館には、13分の短縮効果が見込まれている。

6. おわりに

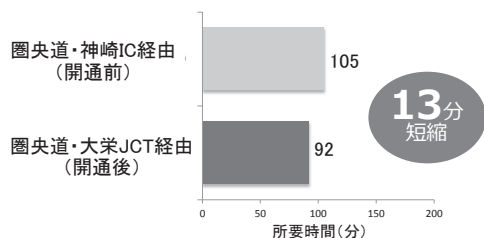
圏央道が次々に開通し、新たな企業立地や拡張、地域の観光・レジャー需要など様々なストック効果が発現し始めている。

ストック効果は、継続的に中長期的に得られる効果であり、圏央道整備を携わる者として、今後も広域的な人・物の交流により民需が拡大し、地域経済の好循環が生まれる様な社会資本整備に努めて参りたい。

【成田国際空港と栃木・足利方面間の所要時間の比較】



【成田国際空港と茨城・水戸方面間の所要時間の比較】



出典)「観光スポット」じやらん.netの茨城県・栃木県の人気観光スポットランキング上位30位のうち「王道」の施設を抽出し、記載